

THIS COVER STORY IS...

後継者になるー。

高齢化率 48%、人口が 3 千人を下回るのもそう
遠い未来ではなくなった日野町。
今、あらゆる分野で後継者不足が叫ばれています。
地域農業もその一つ。今後、日野の農業を支えて
いくには何が必要なのか。みんなで考えてみま
せんか。

- THEME1 農業委員会に聞く。
日野の農業の現在地と未来
- THEME2 ふるさとで農業を。
受け継いだ DNA と情熱
- THEME3 “農”は一日にしてならず。
その覚悟はあるかー。
- THEME4 この灯は消さない。
ピンチをチャンスに変えて

誰も直視してこなかった現実がようやく顕在化したと言ってもいいのかもしれない。地域農業の存続へ待ったなしの状況が浮き彫りとなった「農家アンケート」。その結果を踏まえ、日野の農業はどこへ向かえばいいのか。日野町農業委員会・長住会長に聞いた。

「まずは、アンケート調査のきっかけを教えてください。」

長住 これまで国や県、町ではさまざまな支援制度を設け、中山間地域の農業生産活動を支援してきました。しかし、その間、地域では

特集
後継者になる。
THEME1

農業委員会に聞く。 日野の農業の現在地と未来

農業後継者がいない — 61.9%
所有農地を維持できない — 29.3%

日野町農業委員会 / 農家アンケート (2019) より



高齢化が進み、集落によってはその維持すら難しくなりつつあることが分かってきました。地域の農業を守るため、早急に各集落の状況を把握する必要があります。した。

「後継者がいない」「農地が維持できない」という厳しい結果が並びました。

長住 このままでは「あと5年も持たない」というのが正直な感想です。「40〜50代の後継者がいる」と答えた農地所有者もありました(約2割)が、70歳代や中には80歳代の方が一生懸命農地を守っているのが現状です。

「担い手不足の一因として、「キツイ」「稼げない」など負のイメージが重なり、農業への敷居が高くなっていて感じます。今後、農業委員会ではどのような方法で担い手不足の解消や農地を守っていくことと考えていますか？」

長住 町と農業委員会では、現在策定中の「日野町がんばる地域プラン」(令和2年度から5カ年)をもとに、さまざまな課題解決に取り組みながら、地域一丸と

なって農地や地域を守る仕組みをつくっていく予定です。

「具体的にどのような仕組みを盛り込んでいく予定ですか？」

長住 まずは、担い手となる人材の発掘や育成の基盤をつくっていかねばなりません。例えば、高齢化により草刈りや水路の清掃が行き届かなくなった集落に人的支援を行っていくことが考えられます。任期を終えた地域おこし協力隊員や定年退職した人などが、新たな担い手の受け皿になり得るのではないのでしょうか。そのほか、農林振興公社の機能強化を図り、農業や地域をサポートする体制を強化していきたいですね。

「特に新しく農業を始める人にとっては、トラクターなど農業機械の維持管理も大変です。」

長住 確かに新規就農者や担い手にとってコスト面は大きなハードルです。一つのアイデアとして、離農し手放された農業機械などを次の担い手に託し、参入促進を図るというものです。大

事なのは、「稼げる」というイメージを持ってもらうこと。行政や関係団体とも連携しながら農家の所得向上に向け、いろいろなアイデアを出し合っていきたいと考えています。

「地域では遊休農地・耕作放棄地の増加に伴う、防災・有害鳥獣対策も急務です。人だけではなく農地にも目を向ける必要があります。」

長住 今だからこそ、守るべき農地を明確にしていく必要があります。すべての農地を守るにはカネもマンパワーも不足しているからです。加えて、担い手農家の利用農地を集積し、利便性を向上させていかねばなりません。

「ここが一つの転換点になっていくのかもしれないね。」

長住 「担い手がいない」という課題に直面しています。が、悪いことばかりではありません。地域に目を向ければ、まだまだ豊かな資源は眠っていますし、情熱ある担い手も育ってきています。現在地と未来をしっかりと見据えながら、一歩ずつ前進していきたいですね。